



TITLE:

天文同好會觀測部月報

AUTHOR(S):

CITATION:

天文同好會觀測部月報. 天界 1932, 12(137): 306-312

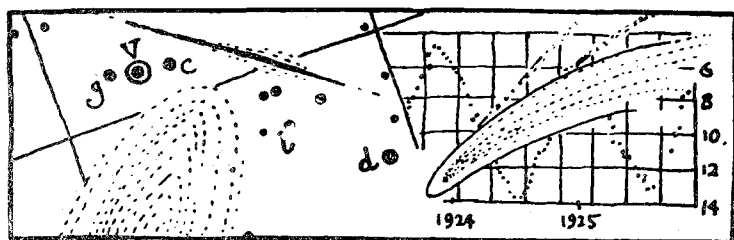
ISSUE DATE:

1932-08-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/162250>

RIGHT:



天文同好會觀測部月報

觀測部流星課報告 (36)

課長 小槇孝二郎 (K. Komaki)

本年三月及四月の觀測は甚だ少數であつた。新觀測者として下記の方々がお活躍下さることゝなつた。

廣島縣賀茂郡竹原町

片山雅彦, 吉井耕一

鳥取縣八頭郡八束村

本田 實

兵庫縣赤穂郡相生町

橋本 迪

觀測の概略 (Daily Summary of observations)

日 時 Time (J.C.T.)	觀 測 者 Obs.	時 間 數 Dur.	流 星 Meteors	F.	日 時 Time (J.C.T.)	觀 測 者 Obs.	時 間 數 Dur.	流 星 Meteors	F.	日 時 Time (J.C.T.)	觀 測 者 Obs.	時 間 數 Dur.	流 星 Meteors	F.
Mar.					Mar.					Apr.				
8.82	Kh	30	1	1.0	4.16	Sn	10	11	0.4	18.16	Kh	15	0	0.6
11.83	〃	110	6	1.0	.81	〃	20	23	0.3	23.12	〃	90	2	0.4
2.81	Ht	30	2		.84	〃	20	21	0.8	22.10	Hn	120	6	
5.83	〃	30	2		.89	〃	50	82	0.8	22.18	Ko	15	1	0.3
8.85	〃	15	0		.94	〃	40	73	0.8	25.86	Ht	25	0	
11.83	〃	45	2		.99	〃	25	65	1.0	17.14	Sk	60	2	0.6
22.89	〃	25	1		5.02	〃	15	23	0.3	19.02	〃	60	0	0.2
25.81	〃	25	1		.07	〃	30	48	0.8	29.15	〃	60	0	0.2
26.85	〃	25	1		9.19	〃	65	15	0.4	1.84	Sn	60	12	0.4
30.84	〃	20	1		11.86	〃	80	7	0.6	2.16	〃	75	12	0.5
31.86	〃	45	4		12.17	〃	90	21	0.6	.87	〃	40	5	0.6
2.84	Sn	90	22	0.5	22.90	〃	10	2	0.3	3.20	〃	35	8	0.6
.94	〃	40	53	0.6	31.84	〃	30	10	0.8	3.05	K.Y.	35	5	

備考 1. 日時は觀測開始と終了との平均時刻を日の100分の1まで示したものである。

2. F. (Factorの略) は、其地にて理想的の晴夜に見られ得ると考へらるゝ

流星数を誘導するに用ふる値で、月齡、清澄度、雲量等を参考にして決定した値である。故に0.5であれば晴夜には2倍の流星が見られ得るといふ意味を有つ事になる。

観測者 (Observer) 及び観測数 (Observed number)

観測者 Observer	略符 Abbr.	観測地 (Locality)	三月 March			四月 April		
			回数 Nights	時間数 Duration	流星数 Meteors	回数 Nights	時間数 Duration	流星数 Meteors
下保茂	Kh	札幌市	2	140	6	2	105	2
橋本迪	Ht	兵庫縣相生町	9	260	15	1	25	0
阪元鐵馬	Sk	福岡縣箱崎町				3	150	2
本田實	Hn	鳥取縣八束村				1	120	6
小横孝二郎	Ko	和歌山縣金屋				1	15	1
片山雅彦 吉井耕一	K.Y.	廣島縣竹原町			1	1	35	6
佐野英主	Sn	{ 京都中筋村 山梨縣身延	9	615	476*	4	210	37*

* 微光流星の観測を含む

流星群の出現状況 (Notes on Apparitions of Meteor Swarms)

1. 琴座流星群 (Lyrid)

出現時期がちやうど満月前後と一致したので、殆んど全く観測出来てゐない。たゞ一人、鳥取縣の本田氏が22日の早晩二時間の観測中から5個の同群に屬するものを得られたにすぎぬ。

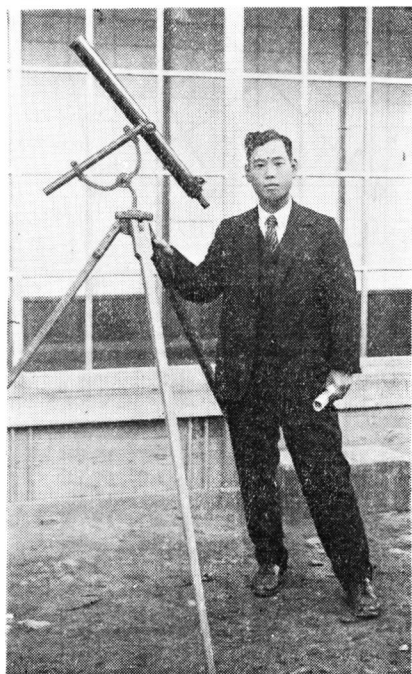
2. 其他の流星群 (Other Swarms)

別に特記すべき流星群はなかつた。微光流星の方面から佐野氏が三月上旬に、獅子座流星群を見られてゐるのが注意される。同氏は2日より5日に及んで観測されてゐるが、特に、4日の夜は前後7個を行はれて其の眞理性をたしかめられた。其の他三月及び四月に數個の流星群も観測されてゐる。

又此の期に見られる乙女座の火球は観測されてゐられぬ様である。

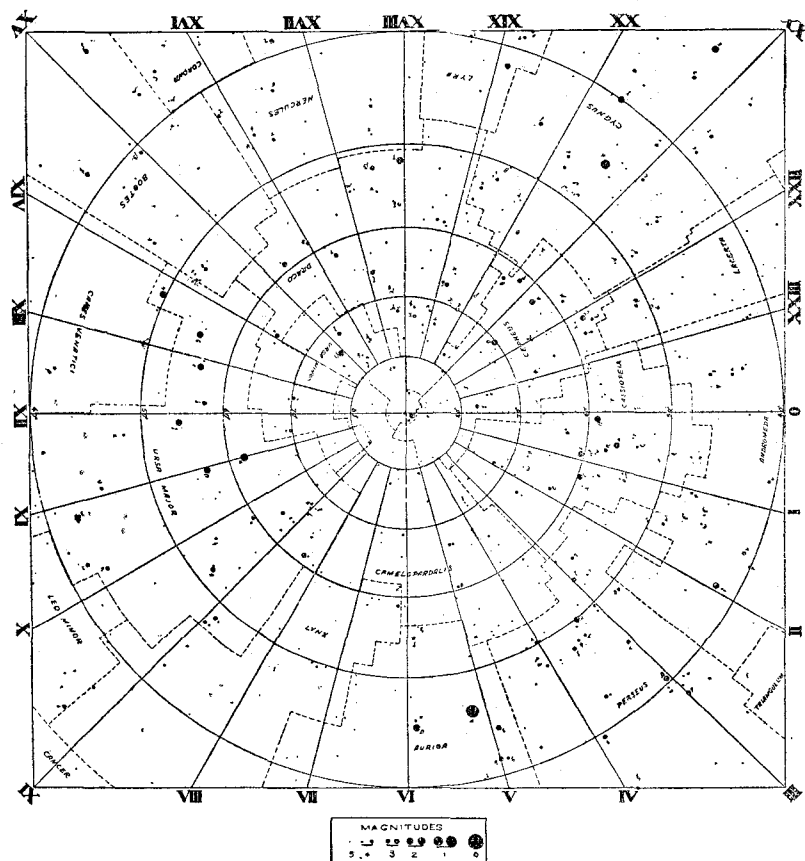
微光流星以外には輻射點のよく決定されたものはなかつた。

こんど下の如き新流星圖が出来上つた課員の試用を望む



小 横 課 長

花山天文臺用乙種流星圖(第一圖)縮寫



補遺 (流星報告[33]へ追加)

以下は去る1931年十一月中の微光流星観測者の観測結果である

日時 Time (J.C.T.)	観測者 Obs.	時間 Dur.	流星 Meteors	F.	日時 Time (J.C.T.)	観測者 Obs.	時間 Dur.	流星 Meteors	F.	日時 Time (J.C.T.)	観測者 Obs.	時間 Dur.	流星 Meteors	F.
Nov.					Nov.					Nov.				
1.81	Ns.	45	7	0.7	15.95	Sh	30	22		15.10	Ku.	40	10	0.4
2.86	〃	72	76	1.0	16.11	〃	〃	4(3)		.85	〃	60	58	0.4
3.80	〃	23	52	0.7	17.15	〃*	240	76(45)	0.9	16.85	〃	60	83	0.6
.92	〃	40	66	0.7	18.10	〃	25	8(4)	0.4	10.16	〃	35	26(18)	0.5
6.83	〃	75	36	0.4	.18	〃	15	5(1)	0.4	11.10	〃	120	125(91)	1.0
8.85	〃	65	36	0.6	19.14	〃	90	22(18)		15.14	〃	60	22(18)	0.4
11.79	〃	60	13	0.4	1.87	Ku	30	19	1.0	16.07	〃	60	44(28)	0.5
.11	〃	170	57(33)	0.4	2.93	〃	40	16	0.8	17.10	〃	120	87(72)	1.0
14.09	〃	13	15(5)	0.2	11.11	〃	〃	5(1)	1.0	18.15	〃	120	39(21)	0.4
17.13	〃	65	37(27)	0.5	.84	〃	60	55	0.7					

鹽見桂三氏共同

彗星だより

花山天文臺 中 村 要

1932 a Grigg-Skjellerup 彗星は a 彗星と呼ばれて居たが、結局 d 彗星と呼ばれる事になり、a 彗星は Cometary object として扱はれる事になった。

1932 c カラスコ彗星は13等以下となつてすでに中口径望遠鏡では観測出来なくなつた。

1932 e Kopff 週期彗星は約12等の光度で天秤座で東の方に動いて居る。大體此の明るさで9月まで見える筈である。

1932 f Newman 彗星はローエル天文臺で寫真的に發見されたが12.5—13等の彗星として各地で観測された。Whipple 及びCunningham 兩氏は6月1, 22及び7月3日の観測

から次の様な拋物線軌道を算出した。

$T=1932\text{年}9\text{月}24.41\text{日}$

$\omega = 69^\circ 39'.2$

$\Omega = 245^\circ 9'.5$

$i = 78^\circ 27'.2$

$q = 1.6495$

地球からは段々遠ざかるが太陽には9月の近日點通過まで近づくので明るさは殆んど變化がない。

1932 g Geddes 彗星はメルボルン天文臺から發電されたので南極近くで發見された。

6月22日7時40分 赤徑9時15分

赤緯 $-84^\circ 36'$ 光度10等運動北

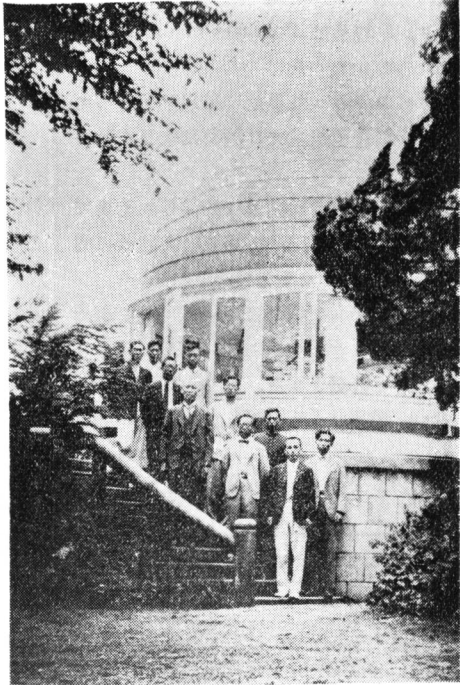
9月頃になると北半球で見える筈。

今年々初以來發見された彗星

番 號	符號	發見者(地名)	發見日	等級	近日點通過日	摘 要
1	1932 a	ヴァンビーヌブルク Van Biesbroeck (北米)	三月 6日	16		
2	1932 b	{ ホルトン Houghton (南阿)	四月 2日	9	1932 Feb. 29	
3	1932 e	{ エンソア Ensor (南阿)	四月 2日	12	1931 Dec. 1	
4	1932 d	{ カラスコ Carrasco (西國)	四月 22日	12	1932 May. 12	グリグ・スケレルブ彗星(1927 V)
5	1932 e	ヴァンビーヌブルク Van Biesbroeck (北米)	四月 28日	11	1932 August 21	コブ彗星(1926 II)
6	1932 f	ボボ1ネ Bobone (南米)	五月 25日	12	1932 Sept. 27	
7	1932 g	ニューマン Newman (北米)	六月 20日	13	1932 Oct. 26	
8	1932 h	ゲデス Geddes (豫州)	六月 22日	10		
9	1932 j	シミット Schmitt (北阿)	六月 25日	13		
10	1932 k	{ ヴァンビーヌブルク Van Biesbroeck (北米)	七月 30日	12	1932 August.	ボレリ1彗星(1925 IX)
		{ ペルテア Peltier (北米)	八月 8日	8		
		{ ホイブル Whipple (ノ)	八月 8日	8		
				以下豫想	(1932 Jan. 6)	ショア彗星(1918 III)
				(ノ Jan.)		テムベル・スキフト彗星(1908 II)
				(ノ June)		ニウジミン彗星(1927 I)
				(ノ July 14)		ワルフ彗星(1925 I)
				(ノ August)		第一テムベル彗星(1866 I)
				(ノ October)		ブルクス彗星(1925 X)
				(ノ November)		フアユ彗星(1925 VI)

黃道光會議決議事項

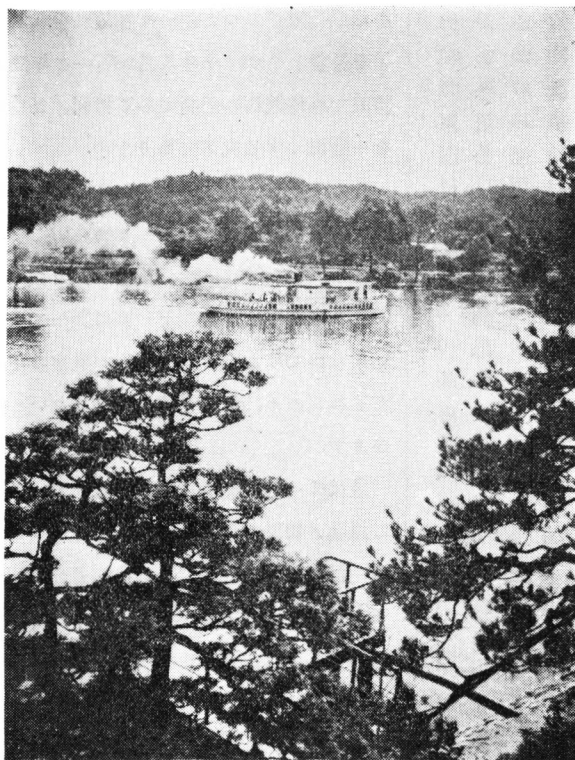
1. 同時觀測の件——(a)同時觀測のプログラムを毎月荒木課長より觀測者に通知し、
是により遺憾なきやう觀測を行ふ。
(b) 比較的近距离の觀測者が數人位づつ同一地點に集合し、同時觀測をなす。
2. 寫眞觀測の件——F4.5よりも
明るきレンズを使用せるカメラを製作す。使用乾板は主として手札とす。中心線の決定に特に留意す。本觀測は補助的にして篤志家に依頼す。
3. 中心線に關する件——觀測者は中心線の位置につき特に注視すること。正確に認め得る中心線の長さを星圖に記入して表すこと。
4. 色に關する件——(a) 色の決定のために、極く淡き色硝子様のものを各自研究製作して觀測す。
(b) 色の區別により黃道光と對日照との關係の有無を見出し得る筈なれば、色の觀測は重大なり。故に兩者につき特別に注意すること。
5. 外形の決定に關する件 ——
(a) 兩眼を結ぶ線を外形に對し 90° の位置、及び其の他種々の位置に置きて比較的の觀測をなすこと。
(b) 外形觀測上の一テストとして蛇つかひ座りより ρ の附近までにある一帯の暗黒星霧の外形のスケッチを行ふこと。
(c) 明るき時期に於ける大體一ヶ月間位の全觀測につき統計をとりて、外形の標準を求むること。(荒木課長に依頼)
6. 明るさに關する件——(a) 北極附近の空の明るさを標準となす。
(b) 北極附近の空の明るさを外形決定の標準となす。
7. 銀河比較に關する件——比較銀河の光度につき、相互的に明るさの關係を決定す。(専門家に依頼す)
8. シーイングに關する件——山頂等の地上の遠景の透明不透明につき見へる程度を



藤井天文臺を訪問せる一行

各自觀測地にて調査し、簡單なる階級に分ち試みることを。

9. 薄明との關係の件——(a) 薄明前後に於ける黃道光の變化等、薄明との關係につき注意すること。
- (b) 西天に黃道光の見へ始まる時刻に東天をも必ず注意すること。
10. 磁氣嵐に關する件——(a) 磁氣嵐につきては課通信にて報告す。
11. 太陽觀測報告の件——太陽課に依頼し週報を觀測者に發送す。尙此の週報には黃道光に關係するニュースを附記す。
12. 課通信の件——一ヶ月二回發信す。時々外國文獻の拔萃を附加す。これにつきて



瀬田川畔

小山氏に依頼す。

太陽、黃道光に關するニュースを屢々大新聞紙上に掲載す。(是は新聞紙を利用し觀測者に急報の便となす)

13. 「天界」及「プレテン」に掲載の件——
- (a) 突發的事件、
ニュース、其の
他を兩誌に掲載
し、一般への報
告及び刺激とな
す。
- (b) “かくの如き
點は不明であ
る”とか、“かく
の如き點を觀測
して欲しい”と
云ふ問題につ
きても、觀測者並
びに一般の注意
を引くやう、「天
界」の本文とし
て記事を掲載す。
14. 新聞に掲載するニ
ュースの件——荒
木課長に依頼し、
15. 黃道星圖に關する件——花山にて製作せる黃道星圖の良否、改良等の點につきては、觀測者より意見を聽集し、觀測に最良なる處置を施す。
16. 經費の件——(a) 極地觀測期間に要する經費につきては荒木課長に調査を依頼す。
- (b) 太陽課に依頼せる點に關する經費につきては、太陽課と合議の上、山本臺長及び課長とが決定す。以上

1932 年 七 月

観測者 (地名)	三澤 (諏訪)	伊達 (大阪)	沓掛 (長野)	改發 (須磨)	木邊 (近江)	大橋 (京都)	龜井 (花山)	千葉 (水澤)	水谷 (東京)
1	29	曇	雨	雨	雨	雨	雨	曇	雨
2	雨	雨	雨	雨	39	27	雨	雨	雨
3	43	26	17	30	43	27	26	28	37
4	43	33	21	42	32	34	28	29	26
5	34	35	21	42	34	33	29	28	27
6	30	31	曇	欠	29	曇	27	曇	25
7	雨	雨	雨	曇	17	曇	15	曇	雨
8	雨	雨	雨	32	欠	曇	雨	曇	雨
9	12	11	12	26	12	11	12	11	11
10	雨	曇	曇	曇	雨	11	雨	曇	11
11	11	11	11	12	11	11	11	雨	曇
12	11	11	11	11	11	曇	11	11	11
13	0	0	0	欠	0	0	0	曇	0
14	13	0	0	0	0	0	0	曇	0
15	0	0	0	0	0	0	0	曇	曇
16	雨	0	雨	0	0	0	0	0	雨
17	0	0	0	0	0	0	0	0	曇
18	0	0	曇	0	0	0	0	0	0
19	11	0	曇	0	0	0	0	0	曇
20	0	曇	0	0	0	0	0	0	0
21	0	0	0	0	0	0	欠	曇	0
22	14	0	0	0	0	0	0	雨	0
23	13	0	0	0	0	0	0	0	0
24	0	0	0	0	0	0	欠	0	0
25	0	0	0	0	0	0	0	0	0
26	0	0	0	0	0	0	0	曇	0
27	0	11	0	0	0	忙	11	0	0
28	11	11	11	11	11	11	11	11	11
29	23	11	11	11	11	11	11	曇	11
30	22	11	11	12	11	11	11	曇	11
31	欠	11	11	14	11	11	11	曇	11
平均	13	8	6	10	10	8	9	8	9
日数	25	25	22	25	28	25	25	15	22

太陽課より

幹事代理(龜井)

七月分の観測を御報告いたします。

太陽課のために、毎日毎月の限りなき努

力の結晶を御報告下さる方は大體十一氏に
きまつてしまつた観があります。然し、熱
心な観測家をもつと澤山に各地に現れるこ
とを希望します。今年八月から一ケ年間國
際的な極地観測の期間である折柄、この感
を一層深くする次第であります。

さて、七月、炎熱焼くが如き此月の観測
は決して楽なものではありませんでした。
強烈な直射を受け、流れ落ちる汗を拭取る
ことを忘れて、全神経を一眼に集めて得た
結果なので、此の報告の数字の中に
含まれてゐる汗をよく味つて頂きたいと思
ひます。

最後に一寸観測者に申し上げますが、此後
は原稿ノ切後に頂きました御報告について
は、特にこの旨を附記せず何月分、何々
氏とのみを記載して、御報告落筆の通知に
かへることにいたします。(度々のことで
すが、出来るだけ早く御報告をお願いいたし
ます。)

六月分 千葉氏

なほ、山田氏(小郡)は此月は都合により
全部缺測されました由御通知がありまし
た。又、幡上氏(津市)は18日以後の観測を
假報告されましたが、8月より正式に報告
される筈です。